

縄文の人々の暮らしを知る



信仰

縄文の人たちは水場の祭祀場を役目を終えた石製の道具を納める“供養の場”としており、水が湧き出て石材が採取できる場所を神聖視していました。また、あらゆるものへの感謝と畏敬の念を持って、日常的に「まつり」が行われていました。



住居

縄文人は竪穴式住居に住んでいました。また北黄金貝塚では、海岸線の後退など自然環境の変化に伴って、居住空間を移動していたことがわかっています。



食事

主に、オットセイなど海獣やカキ・ウニなどの魚介類を食べていました。主にドングリなどのデンブン質を食べていた本州の縄文人よりも虫歯が少ないという調査結果が出ています。



貝塚

貝塚からは丁寧に葬られた人骨も発見されていることから、縄文人は貝塚を単なるゴミ捨て場ではなく「全ての生き物の墓地」と考えていたことがわかります。



道具

縄文人は生活に必要な道具はすべて自分たちで作りました。北黄金貝塚でも、底が平らな貝殻文土器（上坂式土器）や北海道式石冠とよばれるすり石など様々な道具が発見されています。



C O L U M N



北黄金貝塚の功績

昭和62年12月、北黄金貝塚は道内2番目となる国の史跡に指定されました。それは北黄金貝塚の調査により考古学的、人類学的に新たな発見や成果があった点が評価されたからです。たとえば、貝塚から埋葬された人骨などが発見されており、埋葬の場として使われていたことは祭祀や儀礼の場としても重要な場所であり、それまで“貝塚=ゴミ捨て場”とされていた定説に一石を投じる発見だったと言えるでしょう。



史跡北黄金貝塚公園

住居跡や水場の祭祀場など縄文人の暮らしがうかがえる北黄金貝塚公園には貝塚や竪穴式住居も復元されており、縄文体験学習では発掘調査の模擬体験などができます。

伊達市北黄金町75 TEL 0142-24-2122

西暦年	約1万年前		前3世紀		7世紀		13世紀		17世紀	
本州	旧石器時代		縄文時代		弥生時代		鎌倉時代		室町時代	
北海道			縄縄文時代		古墳・飛鳥時代		平安時代		安土・桃山時代	
北海道および伊達での出来事					擦文時代		アイヌ時代		江戸時代	
	約2万3千年前	約7千年前	約3千年前	約2千年前	3世紀頃	7世紀頃	13世紀頃	1457年	1855年	
	北海道に人が住み始める	噴火湾東岸にて縄文人が大規模な貝塚や集落を形成（北黄金貝塚）	本州・亀ヶ岡文化が北海道に伝播	有珠湾岸に続縄文人が住む本州・弥生文化との交流も見られる（有珠モシリ遺跡）	オホーツク文化が樺太から南下	擦文文化がおこる	アイヌ文化がおこる	松前藩の武田信広がコシヤマインを討ち和人が蝦夷地の支配権を持ち始める	蝦夷地が幕府の管轄下となる	
		 北黄金貝塚		 有珠モシリ遺跡						

発掘された歴史の証人

【クジラの骨でできた骨刀】

約5,500年前のものと考えられます。物を切るための道具ではなく、祭祀の時に使われたと考えられています。

【土器】

北黄金貝塚で最も多く出土する土器は、縄文前期の土器です。芸術的ともいえるこの美しい模様には、大切な願いや意味が込められているのかもしれません。

【シカの骨・クジラの骨でできた儀式用のスプーン】

約5,500年前のものと考えられる儀式用スプーン。約2,000年前の有珠モシリ遺跡から出土したものとよく似ていることから、4,000年もの間、ほぼ

【北海道式石冠】

把手のついたすり石のことで、石の冠のような形をしているところから名付けられました。

有珠モシリ遺跡出土品

約2,000年前

【クマを彫刻したスプーン】

続縄文恵山文化の代表的な道具です。クマの彫刻が特徴的で、祭祀の時の道具と考えられています。

【イモガイの貝輪】

南海産のイモガイで作られた貝輪。弥生文化では権威の象徴として身に付けていました。この時代にすでに列島規模での交易が行われていた証だと考えられています。

アイヌ文化遺跡出土品

約700年前～

【鉄鍋】

アイヌ文化が展開した13世紀頃には土器は作られなくなっており、代わりに鉄鍋を使用するようになりました。これらは主に本州から入手したもので、アイヌの人びとの交易の活発さを示しています。

【太刀（エムシ）】

アイヌ文化では太刀は重要な道具でした。これらは武器ではなく、儀礼の際に使用されたり、壁に飾っておくなど大切な宝物として扱われていました。